

ニホンザルの特徴

- ・群れを作り、一定の範囲を利用する。
- ・メス 生まれた群れで一生を過ごす。
- ・オス 生まれた群れをでる。



ハナレザル・
別の群れへ合流

・頭数 : 長野県平均で1群50頭 「群れ」

野生では100頭はまれ → 100頭を超えると分裂し易い

・出産 : 初産は6～7歳で3～4年に1回1頭出産。

農作物を食べる群れは
初産の低年齢化・1～2年に1回1頭[♀]出産。赤ん坊の死亡率低下。

※自然環境研究センター 常田氏資料より

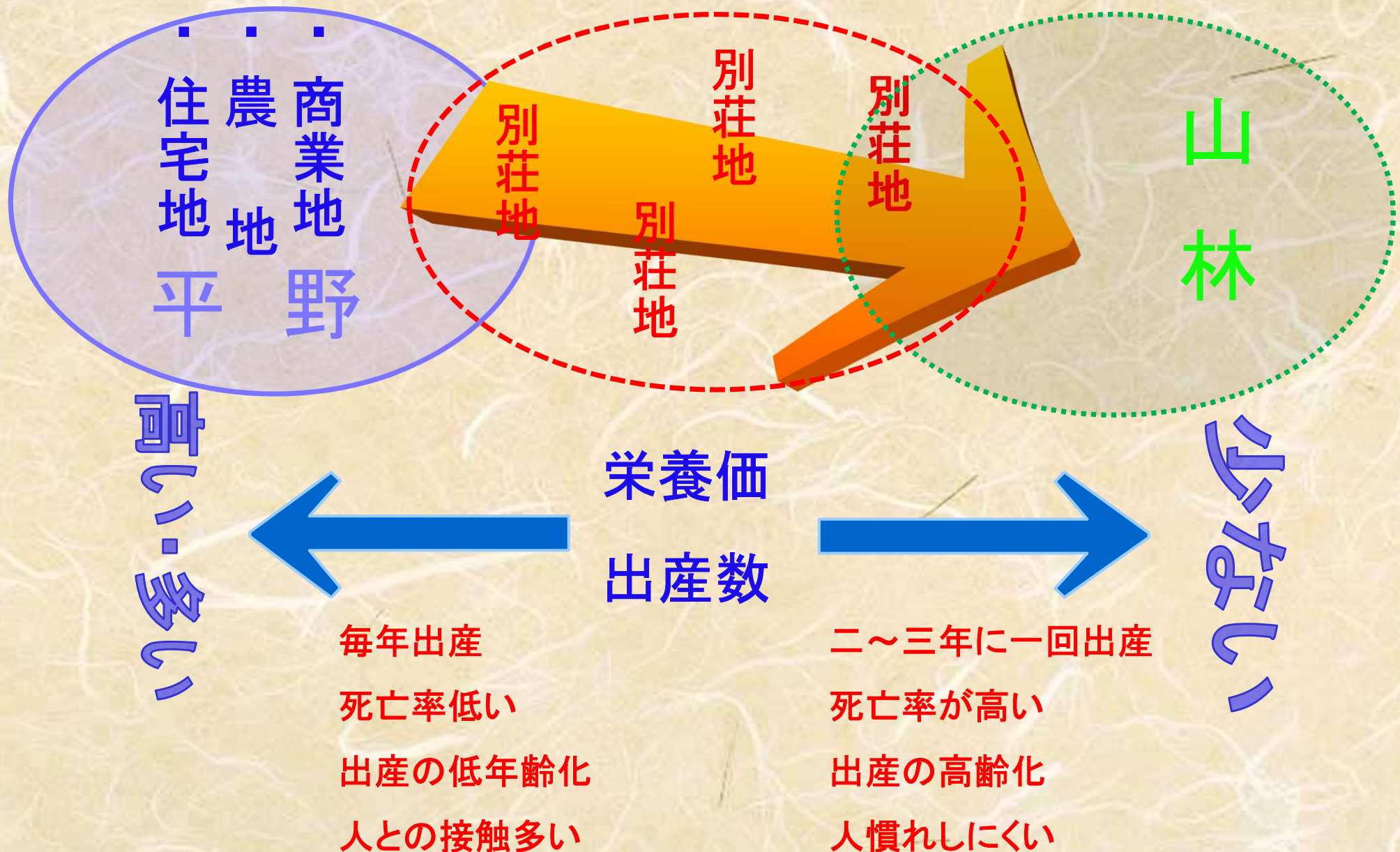
軽井沢群(K群)

- ・別荘地中心に行動
- ・頭数約20頭
- ・家庭菜園や花壇の被害、ベランダの糞尿被害

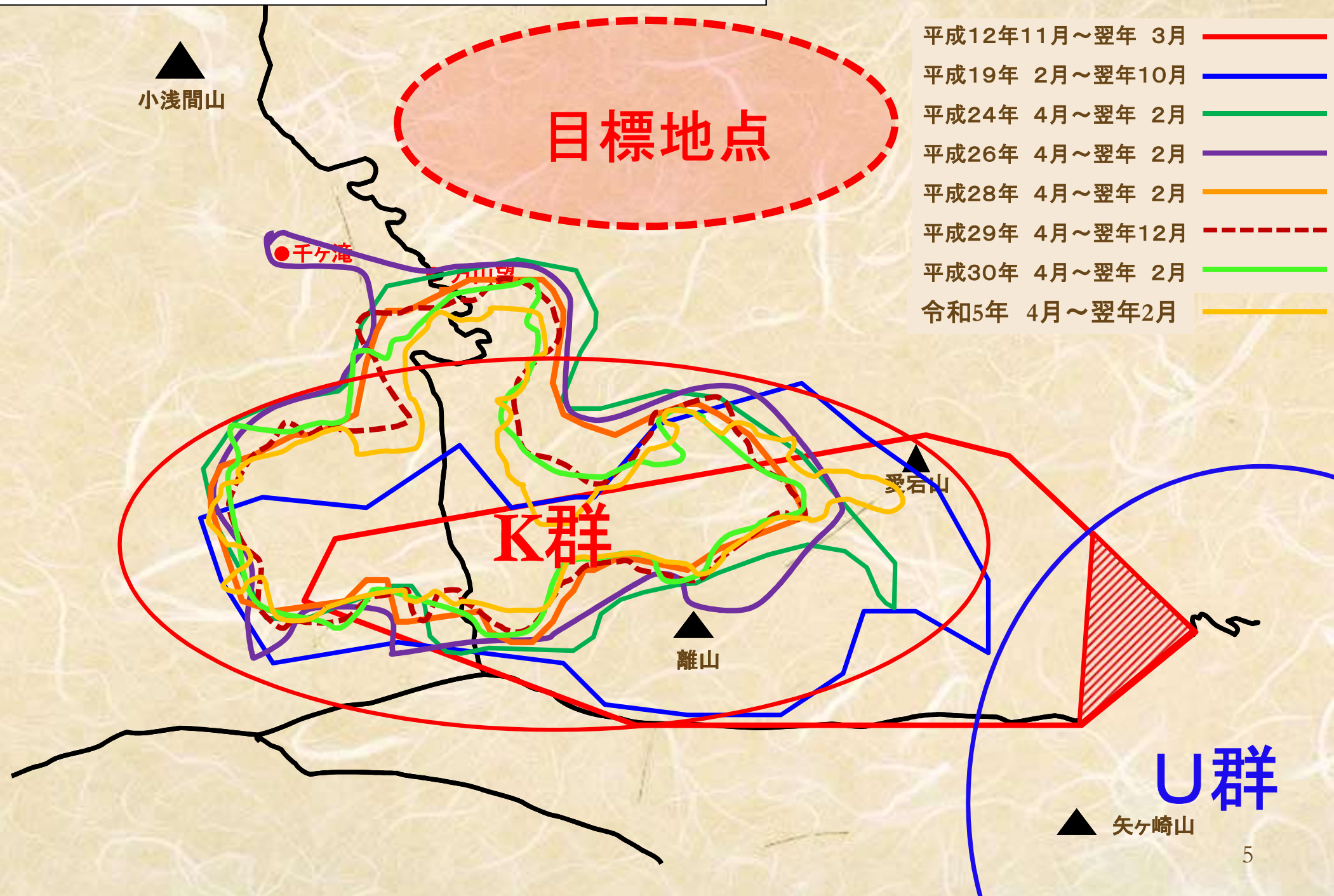
軽井沢でのサル対策

- 追い払い
- 駆除
- 誘因物除去

「里のサルは増えやすい」 追い払いをしよう！



K群(軽井沢群)の行動域の変化 過去三年比較ver.



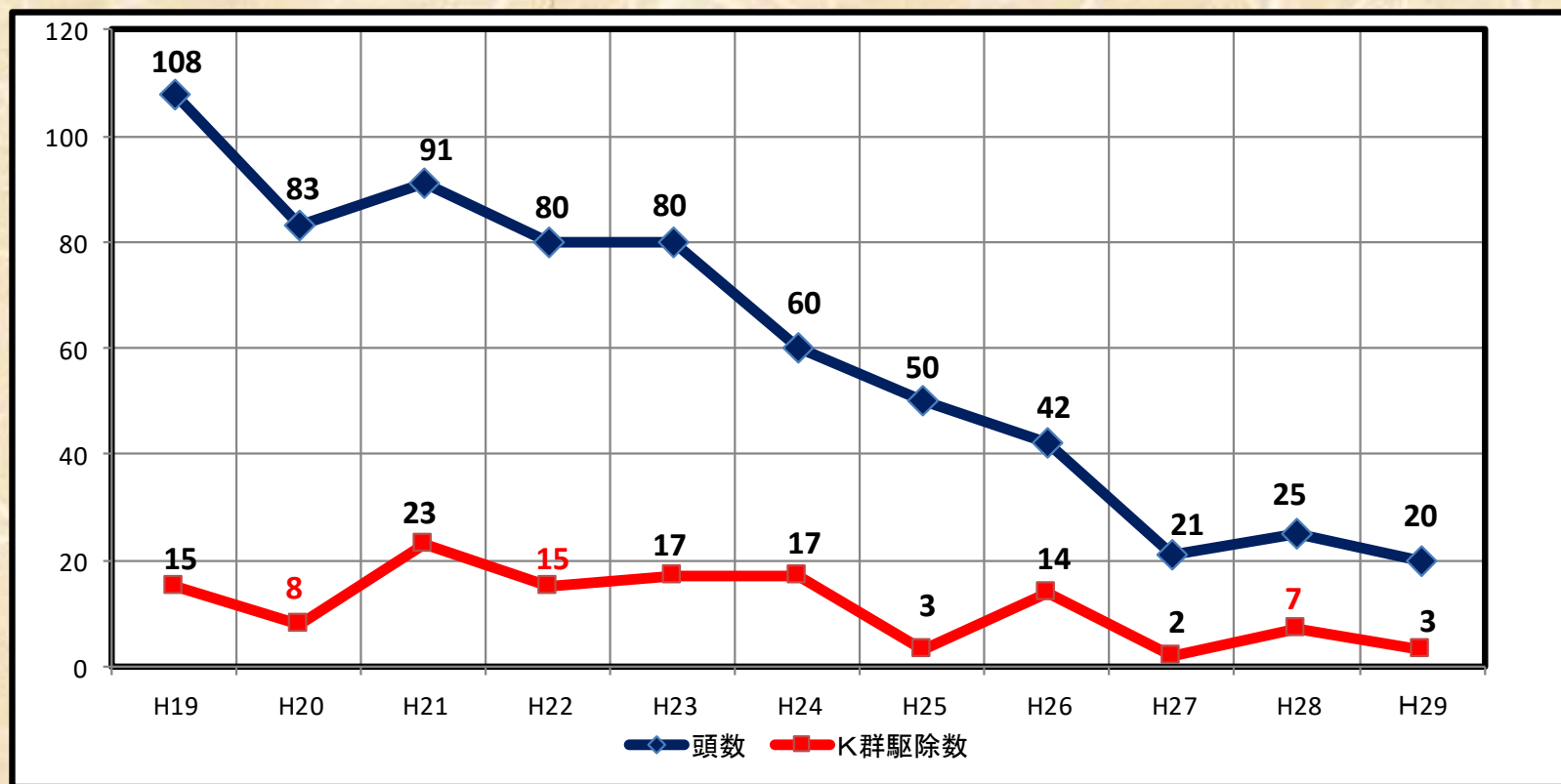
○駆除の考え方

- 1 群れの全体捕獲 = 群れをなくす
対策の効果が低い 複数の群れがある
- 2 群れの一部を捕獲 = 群れ存続
分裂のリスク減少 管理しやすい頭数(40頭前後)
- 3 個体を選んで捕獲 = 群れ存続
加害個体を選択捕獲 → 群れのリスク軽減

K群の頭数と捕獲数

K群は平成19年の108頭が最高頭数

※ 令和6年12月は約20頭



「駆除」 - 群れの頭数を減らすとは？ -

① 群れの頭数を減少させる

- ・餌の必要量が減少、つまり被害が減る？
- ・群れの行動範囲の減少？（注：餌や地形の条件が均一と仮定した場合）
 - 被害地域の減少（被害が集中する可能性）
 - 中心的個体を駆除した場合、分裂しやすくなる。

「駆除」 - 群れの頭数を減らすとは？ -

② 個体を識別・選別して駆除する場合

- 分裂のリスクを避ける
 - 群れ順位高い個体をとらない
 - 群れ順位の低い個体を優先して駆除
 - 個体が識別できない場合は、子供や若いオスを駆除
- ※ 特に赤ん坊やオスは
駆除しても影響がより少ないと考える。
- 個体識別は難しい。

サル対策の**今後**について

- 追い払い
→ **別荘地から**山林への追い払い
- 捕 獲
→ 問題個体を駆除
- 情報収集
- 普及啓発
(皆さんへの被害対策のお願い)
 - ・畑 → 電気柵 ネット
 - ・自 宅 → 外出時の施錠
 - ・誘引物の除去(鳥の餌台)